

医師は語る



医療法人社団健翔会
堀口医院 理事長
堀口 裕

現代医療とは、目に見えるもの

現代医療とは、簡単には「目に見えるものを相手にした医療」のことです。例えば皮膚に湿疹があるのを見つけた。大腸カメラをしたら1cmの大きさのポリープが見えた。また肺のレントゲン写真に肺炎の像が見えた。脳のMRI写真に脳梗塞が写っているのを見た。そして血液検査で悪玉コレステロールの値が、基準値を超えて200mg/dlまで上昇しているのを確認した。これらはすべて目に見えるもの、目で確認できるものばかりです。一般的には、これらを病気と呼んでいます。したがって病気を治療するときも、目に見えるところを対象にして治療します。例えば湿疹の患部に軟膏を塗る。大腸ポリープを切除する。肺炎治療薬を投与する。また脳血管に血の塊ができないように投薬する。さらに悪玉コレステロールの値を基準値内まで下げるために投薬する。これらの治療はすべて理に適った治療です。しかしながらこれらの治療は、病気を治す治療ではありません。

病気の根とは、地震の震源地のごとく目に見える病気のほとんどは、初めは見えなかったのです。見えなかったものが見えるようになったのです。これは地震と同じです。地震が起こると大きな揺れを感じ、時に建物が倒壊するのを目の当たりにします。しかし決して震源地は見えないのです。もちろん震源地がなければ、地震は起こりません。もし地震を防ごうとすれば、震源地をなくする以外にありません。もっとも地震の場合は、自然現象ですから、事実上地震を防ぐことはできません。病気の場合、震源地のことを「病気の根」と呼んでいます。大変有り難いことに、この病気の根は刈り取ることが出来ます。ところで病気の根は誰に発症するか？それは自分に発症する。また病気というものは、とても多くの人に発症しているが、必ず起こるというものではない。そうしますと病気は自分に起こるが、本当に病気が起こるか？どうかは自分次第ということになります。すなわち私たちは、「自分で病気を防ぐ力」というものを持っていて、これが丈夫なとき病気は起こらないと考えます。このような力を自己防御力と呼んでいます。ゆえに病気の根とは自己防御力の低下を意味します。

自己防御力とは、自然治癒力ではない

世の中ではときどき自然治癒力という言葉が使われています。もし病気に對して、「人が生まれながらにして持っているところの病気を治癒する力」と表現される場合があるなら、その解釈の一つに「病気が発症してから、その人が持っている自然治癒力を発揮して治す」というふうな受け取られます。しかし私は、「病気そのものが、自分で病気を防ぐ力（自己防御力）が欠落したために起こる」と考えていますので、病気を治癒させるためには、もう一度病気を防ぐ力（自己防御力）を回復しなければならぬと思います。もし自然治癒力にも、そのような解釈が含まれているとしても、これまでのところ自然治癒力を客観的に評価する方法が示されていません。そのような観点から自己防御力は自然治癒力とは同じではないと考えています。ところで自己防御力は、二つで表現されます。もっとも大切なことは①細胞の元気度です。これは細胞の新陳代謝のことを意味します。端的に人の身体は細胞のみでつくられています。ゆえに病気が起こる究極の場は「細胞」です。もし細胞の新陳代謝がいつも満点なら、細胞に病気は起こりません。しかし現実、細胞の新陳代謝は常に悪化する危機にあります。もし万一、新陳代謝の悪くなると病気の細胞ができれば、それを除去する必要がある。その時に力を発揮するのが②免疫細胞です。免疫機能のバランスを保つことで病気の細胞を処理し、それが増えないようにしています。また私たちは食事内容の偏りや自律神経バランスの乱れ、免疫バランスの不調によって③炎症を起こします。炎症が大きいと病気の細胞は増えるようになります。例えば同じ身体部位の、同じ種類の、同じステージの癌であっても、炎症が大きいと病状は悪化します。すなわち癌細胞は増える方向に向かいます。したがって常に炎症を鎮静化しておく必要があります。

生き抜くための三つの方法

既に病気の人は、現代医療を使って病気の見えるところを治療してください。例えば薬によって糖尿病の血糖値を正常化する、あるいは高血圧症の血圧をさげるなどして下さい。しかしそれで数次的に病気が見えなくなっても、それは治ったわけではありません。病気には震源地なる「病気の根」があるわけですから、それを刈り取る必要があります。すなわち、失っていた自己防御力を再び高めなければなりません。しかしそれは自分で実行しなければなりません。殆どの病院が行うのはあくまで見えるところの治療だけになります。自己防御力を高める方法は大きく3つあります。第一は抗酸化物質を摂ることです。かんきつ類のビタミンC、アボカドのビタミンE、ほうれん草のαリポ酸、イワシのCoエンザイムQ10、トマトのリコピン、ブルーベリーのアントシアニン、カボチャのβ-カロテンなど沢山あります。第二に散歩やウォーキングをすることです。このとき呼吸にて二酸化炭素をはき出し、かわりに酸素を摂取してください。第三に還元電子治療をしましょう。これは身体に「電子」を与えるだけの治療ですが、よりスピーディに身体の自己防御力を高めることができます。私は人生において最も大切なこと、それは「生き抜くこと」だと思っています。そして生き抜くためには、常に健康でなければなりません。皆様は、いかがお考えでしょうか。

【堀口裕先生プロフィール】

北海道出身。川崎医科大学医学部卒業。一九九二年香川県坂出市で医療法人社団健翔会堀口医院を開院。現在堀口医院理事長兼院長を務める。世界で初めて細胞の中を調べる「細胞内検査」を独自に考案され世界各国で特許を取得。またその細胞のコンディションを取り戻すための「還元電子治療」を独自に開発。二〇一一年五月、世界中医薬学会連合会、自然療法研究専門委員会、副会長に就任。現在は、病気の根を調べる「自己防御力診断」と病気の根を治療する「還元電子治療」を駆使し、全国で一万六千人以上の患者の治療に取り組む傍ら、「根元の医療」と呼ばれる新しい医療を推進し、全国で講演活動を行っている。